

## 第34回歴史地震研究会（つくば大会）のお知らせ（第3報）

第34回歴史地震研究会（つくば大会）のプログラムが決定いたしました。講演要旨，懇親会，巡検参加申し込みの締め切りは7月31日（月）です。申込先は本報 8. 懇親会・巡検参加申し込み先・講演要旨送付先 にあります。

### 1. 場所

つくばイノベーションプラザ 大会議室

茨城県つくば市吾妻 1-10-1（つくばエクスプレス「つくば駅」から徒歩3分）

### 2. 日程

2017年9月15日（金）～9月17日（日）の3日間

15日 研究発表会・懇親会

16日 研究発表会・総会

17日 巡検

### 3. 参加費

会員：1,500円 非会員：3,000円

### 4. 講演要旨について

発表1件につきA4サイズ1ページ（厳守），カメラレディ（そのまま印刷可能な）原稿のご用意をお願いします。歴史地震研究会ホームページからダウンロードした標準フォーマット（Wordファイル）を書き換える形で原稿を作成のうえ，原則としてWordファイルを電子メールで提出してください。やむを得ない場合は郵便にてお送り願います。7月31日（月） 必着といたします。原稿の送付先は8. 懇親会・巡検参加申し込み先・講演要旨送付先をご参照下さい。

### 5. 発表について

口頭発表で使用するPCはWindows1台，Mac1台をこちらで準備いたしますので，当日は事前にファイルを集約する予定です。ご発表前の休憩時間までにUSBメモリ等でご提出ください。各自でご用意いただいたPCを接続することもできます。

ポスター発表で使用するボードのサイズは幅180cm，高さ120cmです。これに収まるように作成ください。横長ですのでご注意ください。

### 6. 懇親会について

日時：9月15日（金）18:00～20:00

場所：ホテルグランド東雲（つくば駅から徒歩8分）

参加費 6,000 円 (学生割引有り)

参加申し込みは 7 月 31 日 (月) まで. 申込先は 8. 懇親会・巡検参加申し込み先・講演要旨送付先 をご参照下さい.

## 7. 巡検について

8:30 つくば駅出発 大型バスで移動 18:00 つくば駅解散

鹿島神宮・犬吠埼周辺・伊能忠敬記念館などを巡る予定

参加費：6,000 円 (昼食・保険含) 定員：40 名程度 (先着順：会員優先)

参加申し込みは 7 月 31 日 (月) まで.

保険加入のため, 氏名・住所・生年月日・電話番号 (携帯番号可) をお知らせください.

申込先は 8. 懇親会・巡検参加申し込み先・講演要旨送付先 をご参照下さい.

## 8. 懇親会・巡検参加申し込み先・講演要旨送付先

電子メールの場合：[rekishi2017@mri-jma.go.jp](mailto:rekishi2017@mri-jma.go.jp)

第 34 回歴史地震研究会行事委員会：

宍倉正展 (委員長)・小松原琢・伊尾木圭衣

手紙・FAX の場合：

〒305-8567 つくば市東 1-1-1 中央第 7

産業技術総合研究所活断層・火山研究部門内

第 34 回歴史地震研究会行事委員会 宍倉正展

FAX 番号 029-861-3803

## 第34回歴史地震研究会（つくば大会）プログラム

9月15日（金）、16日（土） 研究発表会

15日（金） 受付9時15分～

### 口頭発表セッションI 地震に伴う現象 9:45～10:45

O-1 榎本祐嗣・山辺典昭・水原和行

歴史地震における山崩れ発光現象とその発生メカニズム

O-2 河内一男

「川底が割れた」という昭和の大橋落橋時（1964年新潟地震）の目撃談

O-3 都司嘉宣

起震断層近傍での高密度死者分布

O-4 井上公夫

いさぼうネットによるシリーズコラム「歴史的な大規模土砂災害地点を歩く」の紹介

休憩<15分>

### 口頭発表セッションII 史料批判と情報活用 11:00～12:30

O-5 新田康二

『三重県歴史災害史年表稿』を編集してわかったこと

O-6 石辺岳男・松浦律子・岩佐幸治・中村亮一・佐竹健治

気象庁震度データベースの有感余震記録から大地震の震源域推定は可能か？—歴史地震への適用可能性の検証—（続報）

O-7 片桐昭彦

前近代の日記における地震動の大きさ表記と信頼性

O-8 阪本真由美

明治日本の地震研究とお雇い外国人—ジョン・ミルンの手紙より—

O-9 松尾裕治・村上仁士

四国の津波避難タワーと歴史地震津波情報の活用

O-10 加納靖之

『御入国以後大地震考』の来歴の再検討

昼休み<1時間>

### ポスターセッションI コアタイム 13:30～14:30

P-1 浪川幹夫・平田恵美・辻 亜紀・萬年一剛

鎌倉における過去の津波到達地点

P-2 石橋克彦

1257（正嘉元）年と 1293（正応六）年の鎌倉大地震—史料による相模トラフ巨大地震の再確認

P-3 久永哲也・内田篤貴・小川典芳・浦谷裕明・武村雅之・都築充雄

明応地震津波に関する東海地域での現地調査結果について（その6）

P-4 山村紀香・加納靖之

1586年天正地震における琵琶湖畔での被害

P-5 日名子健二・松崎伸一・平井義人

1596年豊後地震津波の襲来時刻～『由原宮年代略記』の黄昏から～

P-6 安田容子・今井健太郎

地震後に象潟を訪れた人々と象潟地震

P-7 加納靖之

1854年伊賀上野地震の際に伏見で発生した液状化被害

P-8 中村亮一

1921年龍ヶ崎付近の地震及び1923年関東地震による玉川上水の被害について

### 休憩<15分>

#### 口頭発表セッションⅢ 江戸時代以前の歴史地震 14:45～15:30

O-11 石橋克彦 『武家年代記』の地震記事—鎌倉か京都か？

O-12 馬場俊孝・芦寿一郎・金松敏也

海底地すべりを波源とした1512年永正津波の数値計算

O-13 松崎伸一・日名子健二・平井義人

1596年豊後地震の発生日に関する考察

#### 口頭発表セッションⅣ 前近代の津波・沿岸地震 15日 15:30～16:15

O-14 佐竹健治

1586年天正三陸津波は「みなしご津波」か「偽津波」か？

O-15 今井健太郎・大林涼子・岡田真介・安田容子・都司喜宣・高橋成実

1804年象潟地震の断層モデルに関する検討

O-16 伊尾木圭衣・柳澤英明・谷岡勇市郎・川上源太郎・加瀬善洋・仁科健二・廣瀬 亘・石丸 聡

1741年渡島大島での山体崩壊と津波の数値計算による再現

### 休憩<15分>

#### 口頭発表セッションⅤ 台湾及びインドネシアの地震 16:30～17:15

O-17 塩川太郎・林 麗華

寺廟に残された台湾の歴史地震 -1848 年彰化地震の跡-

O-18 林能成

日本統治時代に台湾で発生した地震の被害および対応の特徴

O-19 梶田諒介・甲山 治

1921-1938 年の植民地期インドネシアにおける地震の地震動のオランダ語表現とロッシ・  
フォレル震度階の推定

**懇親会 18:00～20:00**

**16日(土) 受付9時15分～**

**口頭発表セッションVI 近世の地震I 9:30～10:30**

O-20 西山昭仁

近世京都における被害地震の特徴と要因

O-21 大邑潤三・西山昭仁

1830年文政京都地震における京都盆地北部の被害と被害要因の整理

O-22 盆野行輝

安政伊賀上野地震の城郭被害～藤堂藩の対応から～

O-23 蝦名裕一

復元地形に基づく歴史災害地形の分析

**休憩<15分>**

**口頭発表セッションVII 近世の地震II 10:45～11:45**

O-24 矢田俊文

1710年・1711年伯耆国・美作国の地震と史料。

O-25 中村 操・松浦律子

1854年安政東海地震の長周期地震動を検証する

O-26 都築充雄

安政東海地震(1854)における愛知県の寺院被害状況の整理(その3)西三河南部における  
寺院の限界耐力計算

O-27 中村亮一・佐竹健治・石辺岳男・村岸 純・西山昭仁

関東地域の震度分布の特徴からみた安政江戸地震の震源像について

**総会 11:45～12:45**

**昼休み<1時間15分>**

**ポスターセッションⅡ コアタイム 14:00～15:00**

P-9 木下恭子

関東大震災と皇族邸の被害―宮内公文書館資料から―

P-10 北原糸子・諸井孝文

関東大震災における寺院被害について

P-11 小藪崇明・秋山美咲・鮎川華歩・吉種佑香・青木源太・梅原泰地・齊藤希和

関東大震災における千葉県内の慰霊碑調査中間報告Ⅰ（船橋市・八千代市・館山市）

P-12 篠田海遥・野間鉄心・荒井賢一

埼玉県幸手市に残る1923年関東大震災に関する記録～寺社に建つ石碑・神社の日誌・幸手のかたりべ～

P-13 青島 晃・土屋光永・野嶋宏二・松井孝友

昭和東南海地震（1944）による静岡県西部の軍需工場の被害

P-14 坂本隆彦・河口ちづほ・山本徳久・小佐野喜美恵・澤村清也・田中幹也・畑 秀継・

山本正和

三重県五ヶ所湾湾口集落での東南海地震の体験聞き取り調査

P-15 蝦名裕一・佐竹健治

帝国大学理科大学の調査資料にみる津波記録・伝承

P-16 佐竹健治・村岸 純・西山昭仁・榎原雅治・矢田俊文・石辺岳男

近世関東地方における地震史料データベースの構築

**休憩<15分>**

**口頭発表セッションⅧ 明治期の地震 15:15～16:30**

O-28 鏡味洋史・水田敏彦

1896年陸羽地震の畑屋村震災惨状記に記された被害について

O-29 水田敏彦・鏡味洋史

1894年庄内地震の西郷村役場事務綴に記された被害について

O-30 長谷川雄高

濃尾地震における浄土宗の活動について

O-31 山中佳子・新井田倫子

1889（明治22）年明治熊本地震の詳細震度分布

O-32 松浦律子・石辺岳男

1893年色丹島沖、1902年折爪断層付近など、いくつかの明治・大正の地震の再検討（その4）

**休憩<15分>**

**口頭発表セッションIX 三陸の津波 16日 16:45~17:30**

O-33 沼田 清

明治三陸津波の津波石捏造は込山英松

O-34 熊谷 誠・蝦名裕一

岩手県気仙郡唐丹村行政文書に見られる昭和三陸地震津波後の対応

O-35 辻本侑生・岡村健太郎・青井哲人・石樽督和

災害アーカイブズとしての山口弥一郎旧蔵資料の特徴と意義

**口頭発表セッションX 関東地震 16日 17:30~18:15**

O-36 神田克久・武村雅之

大正関東地震と元禄地震の震度インバージョン解析による揺れの再評価

O-37 清水雅樹・三神 厚・西 恭平

1923年関東地震による相模川堤防の被害

O-38 武村雅之

石碑から見える関東大震災の復興（まとめ）

**9月17日 巡検 8:30 つくば駅出発 18:00 つくば駅解散**